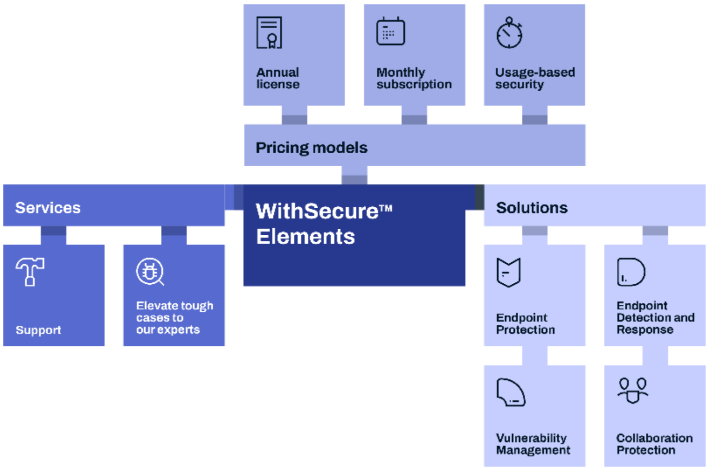
報道関係者各位

ウィズセキュア、クラウド環境の セキュリティ対策製品に Microsoft OneDrive 保護を追加

〜 Exchange、SharePoint 向けに続いて対応製品を拡大 〜

2022 年 10 月 26 日
ウィズセキュア株式会社

先進的サイバーセキュリティテクノロジーのプロバイダーである WithSecure (旧社名: F-Secure、本社: フィンランド・ヘルシンキ、CEO: Juhani Hintikka、日本法人: 東京都港区、以下、ウィズセキュア) は、同社のクラウドベースのセキュリティプラットフォームである WithSecure™ Elements (以下、Elements) 中のソリューションである WithSecure Elements™ Collaboration Protection (以下、Collaboration Protection) に『OneDrive Protection』を追加したことを発表しました。これにより、これまで Collaboration Protection が Microsoft365 ユーザーに向けに提供してきたマルウェア対策、URL／ファイルのスキャン、侵害されたアカウントの検出などの機能がより幅広く利用できることとなります。



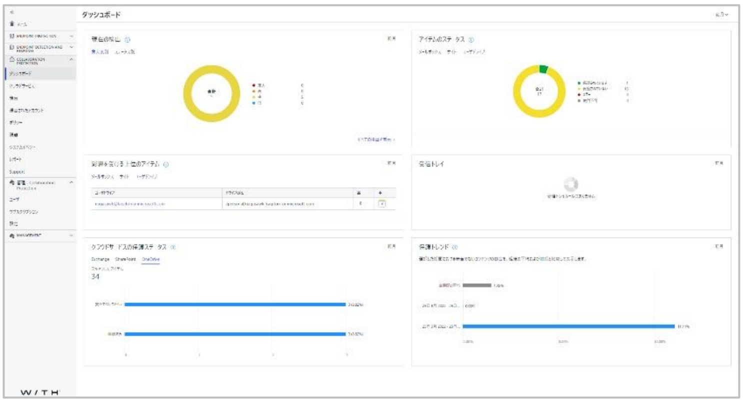
(WithSecure™ Elements プラットフォーム)

Microsoft Office のサブスクリプションサービスであり多くのビジネスユーザーに利用されている Microsoft 365 は、マルウェアの拡散を狙う多くのサイバー犯罪者の標的となっています。ウィズセキュアが本年 5 月に 12 ヶ国 3,000 名超の IT プロフェッショナルを対象に実施した調査[*1] によると、Microsoft 365 や Salesforce などのクラウドベースのコラボレーションツールに対するセキュリティ保護は、企業にとってのセキュリティの技術的優先事項のトップ 5 の 1 つとして挙げられています。回答者の約 4 人に 1 人が調査前の 12 ヶ月間において自社のクラウド環境に対する標的型攻撃を 1 回は検知し、約 5 人に 1 人が 2 回以上の攻撃を検知したと回答しています。また、回答者の 15%は最低 1 回の、6%が 2 回以上のデータ漏洩を経験したと回答していることからも、クラウド環境への攻撃は既に珍しいものではなくなっていると言えます。

ウィズセキュアでプロダクト部門長を務める Leszek Tasiemski (レゼック・タシエムスキー) は、コラボレーションツールの保護について次のように語っています。

「現在、クラウドベースのコラボレーションツールの導入は企業にとって急速に必要不可欠なものとなってきています。しかし、実際には、これまでと異なる環境にまだ適応できていない企業も少なくない状況です。そうしたクラウドへのセキュリティ対策の未整備という現実はサイバー攻撃者にとって魅力的な攻撃ベクトルとなっており、企業にとって大きな懸念材料なのです。」

Elements は、エンドポイント保護 (EPP)、エンドポイントでの検知と対応 (EDR)、脆弱性管理、コラボレーション保護などのさまざまな機能を持ち、ユーザーは自社のニーズに応じてそれらを柔軟に選択／組み合わせすることができます。OneDrive にアップロードされたファイルは、変更された場合も含めて継続的にスキャンされ、分析されます。悪意があると認識されたファイルはサンドボックス実行および分析されます。ウイルス／トロイの木馬／ランサムウェア／マルウェアなど、発見された悪意のあるコンテンツはすべて検出され、ブロックまたは削除されます。



(WithSecure™ Elements Collaboration Protection ダッシュボード)

(有害ファイルの検出)

WithSecure Elements™ Collaboration Protection の主な機能／特長は以下の通りです。

- Microsoft Exchange/SharePoint/OneDrive 上のアイテムと有害コンテンツの URL をスキャン
- サンドボックスにより不審なファイルを動的に解析し、悪質な行動を検知
- クラウドからクラウドへのシームレスな統合により、数分で簡単に導入が可能

「WithSecure Elements は、今後もより多くのコラボレーションツールやプラットフォームをカバーし、ユーザー行動分析、リアルタイムのクラウド検知と対応、個人情報、クラウド上のデータ資産、デバイス間の関係性の理解向上を支援し、即時かつ完全な状況認識の能力を防御側であるユーザーに提供します。」と、Tasiemski は締めくくっています。

WithSecure™ Elements Collaboration Protection はウィズセキュアのパートナー経由でご購入可能です。価格 (税別) は 1 ユーザーあたり年間 3,500 円(24 ユーザーまで)／3,000 円(25〜99 ユーザー)／2,600 円(100〜499 ユーザー)／2,500 円(500〜999 ユーザー)となっています。

*1 WithSecure 2022 B2B マーケットサーベイ。2022 年 5 月に 12 ヶ国 (日本／フィンランド／イギリス／フランス／ドイツ／ベルギー／オランダ／デンマーク／ノルウェー／スウェーデン／アメリカ／カナダ) で 3,072 人を対象にオンラインによる調査を実施。回答者は、IT／クラウド／ネットワークセキュリティの製品およびサービスを導入する企業／団体内の IT 意思決定者／IT インフルエンサー／経営幹部である。

WithSecure Elements Collaboration Protection の詳細は以下のページでご覧いただけます。
https://www.withsecure.com/jp-ja/solutions/software-and-services/elements-collaboration-protection

WithSecure Web サイト:
https://www.withsecure.com/jp-ja/
WithSecure プレスページ:
https://www.withsecure.com/jp-ja/whats-new/pressroom

WithSecure™について
WithSecure™は、IT サービスプロバイダー、MSSP、ユーザー企業、大手金融機関、メーカー、通信テクノロジープロバイダー数千社から、業務を保護し成果を出すサイバーセキュリティパートナーとして大きな信頼を勝ち取っています。私たちは AI を活用した保護機能によりエンドポイントやクラウドコラボレーションを保護し、インテリジェントな検知と対応によりプロアクティブに脅威を検出し、当社のセキュリティエキスパートが現実世界のサイバー攻撃に立ち向かっています。当社のコンサルタントは、テクノロジーに挑戦する企業とパートナーシップを結び、経験と実績に基づくセキュリティアドバイスを通じてレジリエンスを構築します。当社は 30 年以上に渡ってビジネス目標を達成するためのテクノロジーを構築してきた経験を活かし、柔軟な商業モデルを通じてパートナーとともに成長するポートフォリオを構築しています。
1988 年に設立された WithSecure は本社をフィンランド・ヘルシンキに、日本法人であるウィズセキュア株式会社を東京都港区に置いています。また、NASDAQ ヘルシンキに上場しています。
詳細は www.withsecure.com をご覧ください。また、Twitter @WithSecure_JP でも情報の発信をおこなっています。

主要ソリューション:
WithSecure™ Elements Endpoint Detection and Response (EDR)
WithSecure™ Cloud Protection for Salesforce
サイバーセキュリティコンサルティング